

# ハーバーサイド・ラグジュアリー ハーバーグランド香港



ホテルからのハーバービュー

2012年ワールド・ラグジュアリー・ホテル・アワードにおけるラグジュアリーシティホテル部門及び全体での受賞はじめ、2009年の開業より栄えある数々の賞を18以上受賞している5つ星ホテル・ハーバーグランド香港は、ハーバーフロントに位置し828の全客室からヴィクトリア湾の眺望を楽しんで頂けます。またミニキッチンを備えたお部屋・スイートは長期滞在にも最適です。総面積12,685平方フィート（約1,178m<sup>2</sup>）の会議室及び宴会場と、5つのレストランを館内に備えております。特別なイベント・ご宿泊に是非御利用下さい。

香港 ノースポイント オイルストリート23号  
(MTRフォートレスヒル駅 - A出口)  
電話：(852) 2121 2688 ファックス：(852) 2121 2699  
電子メール：hghk@harbourgrand.com www.harbourgrand.com



**ハーバープラザ東京事務所**  
スプリングホテルアンド リゾート内〒107-0062  
東京都港区南青山4-16-10 オーク南青山102号室  
電話番号：(03) 5413 5780 ファックス：(03) 5413 5786  
電子メール：rep.tokyo@harbour-plaza.com



# 飛 龍

FLYING DRAGON 日本香港協会ニュース ..... No.72

## 香港は何処へ行く - 香港の行政長官選挙で驚いたこと



香港政府総合庁舎本部ビル

7月からの新行政長官がC. Y. Leung氏に決まった。1997年の香港政府発足から3人目の行政長官だが筆者のような門外漢から見ても実に熾烈な攻撃合戦で大変な選挙だと考えさせられた。確かに大都会ではあるが何しろ狭い、有名人ともなれば一日の行動は殆ど他人にみられていると思って良い。まだ間接選挙とは言えマスコミの絶好の餌食となるスキャンダラスな話が続々と出る。驚いたことに皆自宅に地下室を造り活用していることだ。更に建築規制も厳しいことを知った。隠れ共産党員と噂された新長官もピークの住人だ。尖閣問題では新長官は在香港日本総領事館を呼んだとの報道があった。軍事・外交は北京政府の仕事と思っていたが、香港船を使っての上陸なので素早く行動したのだろう。筆者は以前から8月になると戦時中の日本軍の軍票を持ち出し総領事館に抗議活動していた国民党系の人々が主役と思っていた。ネットでは上陸時、青天白日旗が写ったが、大陸の新聞はそれを消して五星紅旗にしていた。何れにせよ北京政府も裏書きしているのでこの点では国共合作だ。

### 目次

香港は何処へ行く.....	1
アジア最大級の食品展示会「フード・エキスポ」.....	2~3
香港いまむかし「香港再訪～同級生で思い出しと美味満喫」.....	4~5
香港人の訪日旅行需要の変遷（香港人から見た日本の魅力と変化）.....	6
連合会・各協会便り	
連合会：「第13回香港フォーラム」&「全国協会交流会」開催報告 「世界中小企業エキスポ」と「イノベーション・デザイン& テクノロジー・エキスポ」.....	7
香港財界人との交流.....	8
北海道：北海道日本香港協会 会長就任挨拶.....	8
九州：香港における展示会の魅力に関するセミナー開催.....	9
山形：香港の思い出の味.....	9

1997年のFortune誌の「Death of Hong Kong」もその時点での実感であった。2008年1月のTimesの表紙にNy. Lon.kongなる言葉が現れた。世界の金融機関がこの3都市に拠点を置き、3都市がシームレスな織物として資金調達を進め世界の貿易の流れを促進し、世界経済の拡大に貢献したとしている。ところが、2012年になると世界の金融取引の問題点が暴露され、目下大論争となっている。

中国の大国営企業は香港でのIPOにより巨額の資金を得た。共産党幹部の別の顔が香港の金融ハブでの活用に目覚めたともいえる。国共内戦後、上海などから逃れ香港で起業した世代に代わり今はその2世3世が活躍している。広東省などから香港に来た世代も代わり今後は「香港生まれの香港が郷里」という人が主流となろう。天安門事件の追悼デモは年々参加者が増えているようだ。香港の知識階級は欧米の教育を受けている。一党独裁とか言論統制とか全く経験のないことで、この辺りが今後係争の中心となるであろう。一方香港の中国化は更に進むであろう。北京政府のみならず中央官庁、大企業も香港の活用が自分たちに富をもたらすと考えている。香港の中国化は同時に中国の香港化でもある。

香港貿易発展局の顔としてVictor Fung とかPeter Wooが目下財界代表として国際活動を行っている。新長官による新政権発足の前日Peter Wooは歯切れの良い英語で新長官に大胆な行動計画の実行を求めた。詳細は省くが5つの提言と最優先課題として環境問題と社会調和を挙げている。優秀な財界人の支援と香港の使い勝手の良さがある限り香港にはヒト・モノ・カネが集まり続けるであろうが、香港の中国化も限りなく進むであろう。 日本香港協会会長 賤前宏

2012年12月 発行

東京：アジアユースオーケストラ日本公演2012を終えて、 第29回香港ビジネス懇話会、日本シンガポール協会 との役員懇親会を開催.....	10
関西：香港ビジネスセミナー開催、法人会員交流会.....	11
中京：会員親睦会および秋季セミナー、異業種文化交流報告.....	12
宮城：「2012春節セミナー&パーティー」「芋煮会2011」 を開催、女子部会による第2回香港文化教室、 YOUYOUクラブによる芋煮会を開催、英会話教室の開催.....	13
沖縄：沖縄日本香港協会平成24年度通常総会開催、 進化する香港と沖縄への可能性日本首席代表古田茂美氏講演開催.....	14
広島：香港関連事業の実施状況.....	15
ハーバーサイド・ラグジュアリー ハーバーグランド香港のご案内.....	16

# アジア最大級の食品展示会「フード・エキスポ」、初回のパートナー国として日本を迎え大々的に開催！

香港貿易発展局大阪事務所長 伊東正裕

2012年8月16日～20日の5日間、アジア最大級の食品展示会「フード・エキスポ」が、香港コンベンション&エキシビション・センターにて大々的に開催されました。本年度23回目を数えるエキスポは、26ヶ国・地域から1,110の出展者、51ヶ国・地域から16,627人の業界関係者を集め、総来場者数は39万人を数えるなど、過去最高の規模となりました。同期間中、「香港インターナショナル・ティー・フェア」「漢方博覧会(現代漢方&ヘルスケア製品展・国際会議)」を同時開催、「医食同源」の相乗効果の創出を図りました。香港は日本の食品・農林水産物の輸出先としては7年連続首位の座をキープしており、2011年度の香港向けの総輸出高は対前年比8.1%減(世界全体では8.3%減)の1,111億円で、日本食品・農林水産物総輸出額の約25%に相当、アメリカをおさえて最重要輸出仕向地と位置付けられています。



オープニング・セレモニー (石毛ジェットロ理事長<左から4人目>、郡司農水大臣<右から4人目>、横内山梨県知事<右から3人目>)

2011年3月11日の東日本大震災後、香港は諸外国に先駆けて日本食品の輸入規制を発表しましたが、規制の内容および対象地域は、他国・地域と比較すると最も限定的で、現在は5県(福島、茨城、群馬、栃木、千葉)の食品に対して、乳製品、野菜、果物は輸入停止、食肉・水産物については政府作成の放射性物質証明書を要求しています。また規制対象地域の5県の加工食品と、その他の地域の日本食品全般については、輸入サンプルの抜き取り検査を継続して実施していますが、2011年3月23日以降、基準値を超えた製品は未検出となっているため、貿易総額に大きな影響は出ていません。

本年のエキスポは初めてパートナー国制を導入、栄えある初回のパートナー国に日本が選ばれました。過去最大のジャパン・パビリオンは、農林水産省、日本貿易振興機構(ジェトロ)、三菱東京UFJグループなどの強力なバックアップのもと、33都道府県から222企業・団体が出展(前年比32%増)、日本全国各地から米穀類、麺類、畜産品、水産品、乳製品、調味料、野菜、果物、飲料、菓子類、酒類など多岐に亘る特産品が香港に集結しました。

	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
出展者数	339	365	503	607	741	888	1,110
日本出展者数	1	2	20	41	92	162	222
構成比	0.3%	0.5%	4.0%	6.8%	12.4%	18.2%	20.0%
総面積(㎡)	16,070	16,213	16,981	25,820	31,784	36,469	41,428
来場バイヤー	8,547	8,549	8,711	11,513	12,117	12,854	16,627
日本バイヤー数	N/A	N/A	92	122	214	318	373
構成比	-	-	1.1%	1.1%	1.8%	2.5%	2.2%
総来場者数	307,290	314,126	314,612	356,310	371,524	382,500	390,138

パートナー国を代表して、日本からは郡司農林水産大臣がエキスポを訪問、開幕式典に列席したほか、日本食品・農林水産物のPRイベントにも積極的に参画、会場にて日本からの出展者を激励するなど精力的に3日間の香港滞在スケジュールをこなしました。郡司大臣は式典のスピーチで、「日本は、とりわけ食品の輸出促進の支援を香港に求めている」「香港は、ヒト・モノ双方において海上、航空、陸上輸送の優位性を併せ持ち、日本およびその他のアジア諸国にとって主要な拠点である」「香港は日本の食品の最大の輸出仕向地である」「二つの経済圏は強固な貿易パートナーである」と述べ、「オール・ジャパン」による日本の食品・農水産物の香港への売り込みに強い意欲を示しました。記者会見の場においては、尖閣問題に関する質問が相次ぎましたが、日本食品の最大消費地である香港における「食文化交流」を通じてアジア地域の緊張緩和を実現したいとコメント、食品輸出の意義と重要性を強調しました。

香港貿易発展局では去る5月14日に農林水産省と協力覚書を締結、共同で日本食品・農林水産物の香港向け輸出振興に当たっておりますが、エキスポの開催期間中に、特設会場「Japanese Food Culture Museum」において日本食品・日本酒をPRする「ジャパン・レセプション」一般来場者を対象とした日本食調理パフォーマンスと試食会、「グルメ・ゾーン」における日本食材のPRイベントの数々、同時開催の香港インターナショナル・ティー・フェア内での「茶菓子ショーケース」(日本発茶菓子のPRと試食イベント)等パートナー国ならではのオリジナルイベントを実施、日本食の品質・安全性を、全世界から来場するバイヤー、業界関係者に向けてアピールしました。

エキスポ初日16日の夜には、会員制クラブ「Dynasty Club」にて、香港・日本双方からVIPを200名招待し、



ガラ・ディナーの乾杯(左から郡司農水大臣、ラムHKTDC総裁、石毛ジェットロ理事長)

香港貿易発展局と農林水産省共催による「ガラ・ディナー」が、盛大に開催されました。エグゼクティブ・シェフのピンセント・ウォン氏によるプロデュースのもと、日本からの出展企業・団体からご提供いただいた食材・調味料を使用した創作中華料理フルコースに日本酒をペアリングするという斬新なコンセプトは、香港貿易発展局のフレッド・ラム総裁の考案によるものです。メニューは以下の通りですが、いずれも秀逸の出来栄で、ご出席いただいた方々からは高い評価が寄せられました。

1. 前菜三重奏(茹でエビと白桃<山梨産>和え、焼きホタテ<北海道産>のゆずゴマドレッシング<高知産>風味、イクラ<北海道産>と胡瓜の白ボン酢<鹿児島産>和え)と純米大吟醸「貴賓」<高知産>
2. スズキの切り身蜂蜜オープン焼き(みりん<愛知産>・土佐醤油<高知産>合わせダレ)ワカメサラダ<鹿児島産>の金ゴマドレッシング<大阪産>和えと純米大吟醸「福鶴」<長崎産>
3. 黒豚<鹿児島産>と有機玉葱<兵庫産>のソテー、醤油風味ライス<新潟産>添えと特別純米酒「亀泉」<高知産>
4. ビーフ・ステーキ<佐賀産>のガーリック・陳皮ソース風味と純米大吟醸「長崎美人」<長崎産>
5. 濃厚煮込みきしめん<愛知産>(ワンタン入り)と純米吟醸「四万十川」<高知産>
6. デザートの調べ(丹波なた豆茶<兵庫産>ケーキと旬の果物盛り合わせ<長野産巨峰、静岡産メロン、山梨産白桃>)と大吟醸「鍋島」<佐賀産>

「グルメの楽園」として知られる香港には、実に14,000店以上のレストランがあり、うち日本食レストランが外国料理の中では最大勢力となる約1,300店を占めますが、日本食材の更なる拡販を図るためには、全体の6割以上を占める中華料理の世界に参入する必要があります。中華料理の最先端を走る香港、そのトップシェフに認められた食材は、隣接するマカオ・中国本土のみならず、東南アジアや世界中に点在する華僑・華人ネットワークを通じて世界中に広がる可能性を秘めています。食に関しても、香港は「ハブ機能」を有しており、まさに、「最新の食文化は香港から作られる」といえます。

「フード・エキスポ」と同時開催の「香港インターナショナル・ティー・フェア」では、今年初めて「ティー・コンペティション」が行われましたが、鹿児島県の「知覧茶」が見事入賞を果たしました。日本からは唯一の受賞になります。今後は、静岡や京都など日本の代表的産地からの積極的な参画に期待したいと思います。

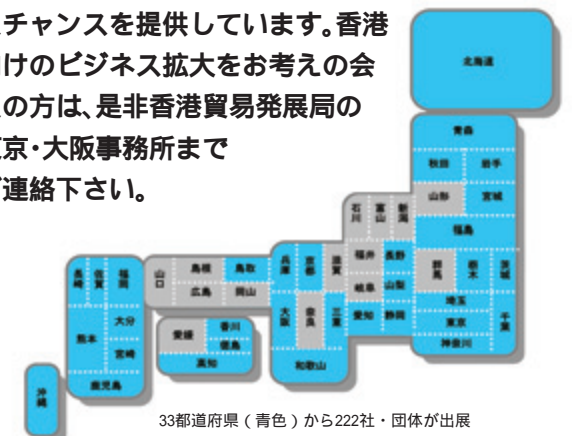
香港貿易発展局は、「フード・エキスポ」のほかにも、11月8日から10日に開催される「香港インターナショナル・ワイン&スピリッツ・フェア」においても継続して日本の酒類の輸出拡大を支援します。本年度は、農林水産省、日本貿易振興機構(ジェトロ)、日本酒造組合中央会が共同して、フェア初回開催以来初の「白鶴酒造」「一ノ蔵」をはじめ24の酒蔵が出展し、清酒や焼酎・泡盛等の試飲などPR活動を行います。フェア開催期間中は、日本からの出展者のために、展示会場内の特設スペース「ICE ROOM」における「日本酒ワークショップ」をはじめとして、数々の特別プロモーションイベントも予定しています。



ジャパン・パビリオン(ジェトロ)

香港は、アジアの主要な市場から飛行機で4時間以内、また、5時間以内で世界人口の約半分にアクセスできる好立地に位置しています。香港国際空港は、世界で10番目に利用客が多い国際空港であり、昨年は利用客が5,300万人を超えました。日々100社以上の航空会社が香港空港から中国本土約40都市を含む全世界約160都市へフライトを運航しています。

エキスポの主催団体である香港貿易発展局(HKTDC)は、香港に拠点を持つ企業及び香港企業と取引をする外国企業の国際的相互マーケティングの促進を目的とし、1966年に準政府機関として設立されました。中国本土の11事務所を含む、全世界主要都市にある40以上の事務所を通じて、中国やアジアにおけるビジネスの拠点としての香港の活用を支援・プロモートしています。また、業界刊行物や調査報告書、オンラインを通じた情報提供のほかにも、各種展示会・セミナー開催やミッションの派遣を行うなど、世界各地の企業の香港や中国本土におけるビジネスチャンスを提供しています。香港向けのビジネス拡大をお考えの会員の方は、是非香港貿易発展局の東京・大阪事務所までご連絡下さい。



33都道府県(青色)から222社・団体が出展



## 「第13回香港フォーラム」 & 「全国協会交流会」開催報告

日本香港協会 全国連合会 事務局

第13回香港フォーラムにて、日本香港協会が  
4年連続「ベスト・アテンダンス・アワード」を受賞!



ベスト・アテンダンス・アワードの表彰を受ける日本香港協会全国連合会 國場会長

去る12月3日・4日、香港ビジネス協会世界連盟 (Federation of Hong Kong Business Association Worldwide / 本部 = 香港貿易發展局内) の世界大会「香港フォーラム」が開催されました。第13回目の開催となった今年は、全世界から400名近くの会員が参加し、大盛況のうちに幕を閉じました。

今年のフォーラムには、日本全国の参加者が昨年の110名を上回り、世界全体の総参加者数の30%以上を占める、総勢122名を数え、国別での参加者数が世界一となり、4年連続で「ベスト・アテンダンス・アワード」を受賞しました。

とりわけ、今年は日本香港協会発足以来、世界連盟執行部の役員選挙に日本から初めて立候補するという歴史的な動きがありました。アジア豪州地域、北米地域、欧州地域から4つのポスト(会長、副会長、honorary secretary, honorary treasurer)が選出されました。欧州票が全34票に対し15票を占めていることにもより、あいにく今回は日本からの役員選出とはなりませんでしたが、今回の立候補はFederation選挙に新たな風を吹き込み、日本、アジアの団結を促し、さらには本協会運営の国際化に向けての新たな一歩を踏み出すきっかけを作る良い結果となりました。



香港貿易發展局ジャック・ソー会長と各地日本香港協会の代表者



壇上での常任委員会選挙

また、各協会の活動に対する受賞式では、世界各地からの多数の応募の中から、NPO法人日本香港協会(東京)の会員、武田レグウェア株式会社代表取締役社長武田進氏が、見事に年間の活動および香港協会のネットワークを通し、最もビジネスを展開させた業績を以ってサクセス・ストーリー・アワードを見事受賞しました。今後このサクセスストーリーは本部のウェブサイトやHKTDCの配信メルマガHK Traderに掲載されることになります。



サクセス・ストーリー・アワードを受賞した武田社長(左)とNPO法人日本香港協会原田理事長

12月4日-5日の2日間の会期中にはビジネスセミナー、パネルディスカッション、ワークショップ、ネットワーキングセッション、視察ツアー等多くのイベントが催されました。初日のランチセミナーには、香港特別行政区政府キャリー・ラム行政長官、2日目には香港の女性企業家3名が登壇したほか、中国ハイアール集団公司楊綿綿総裁、GE副会長ジョン・ライス氏等による数々の貴重なスピーチやディスカッションに参加者全員が聞き入りました。視察ツアーでは香港の歴史建造物を改築した中医薬医療センター雷生春堂、また、元英国軍事施設ならびに第1級グレードを持つ歴史的建造物を利

用して建てられた文化施設、アジア・ソサエティー・香港センター等を訪問しました。最終日のフェアウェルディナーでは世界中のメンバーが

名刺交換をするなど国際的な交流が見られ、メンバー同楽しいひと時を過ごしました。



全国協会交流会参加者集合写真

日本香港協会全国の9協会が全て香港に集まりました

香港フォーラムの前日の12月3日には、グランドホール(名爵)にて第5回全国協会交流会が開催されました。交流会に先立って全国連合会役員会が古田茂美事務局長の挨拶とともに開催されました。今回の役員会は開催直後にその名称を「総会」に変更する旨が決議され、その後、在香港日本国総領事館隈丸優次総領事大使の挨拶、つづいて全国連合会國場幸一会長が議長として選出され、第一回総会として今年一年の活動を振り返るとともに来年の新たな事業計画が討議されました。

全国交流会では本年の幹事である中京日本香港協会の進行のもと、全国連合会國場会長の開会挨拶、隈丸総領事大使の来賓挨拶、ラルフ・チャウ香港貿易發展局プロダクト・プロモーション・ディレクターの乾杯の挨拶を頂きました。香港に年一度の交流ということもあり、今年は140名以上の方に参加頂きました。また、来年新たに設立予定の新潟日本香港協会を視野に入れて、ニュービジネス協議会会長池田弘氏よりご挨拶を頂きました。今年ご参加いただけなかった方は、是非来年ご出席いただき、メンバーとの交流を深めていただければと思います。

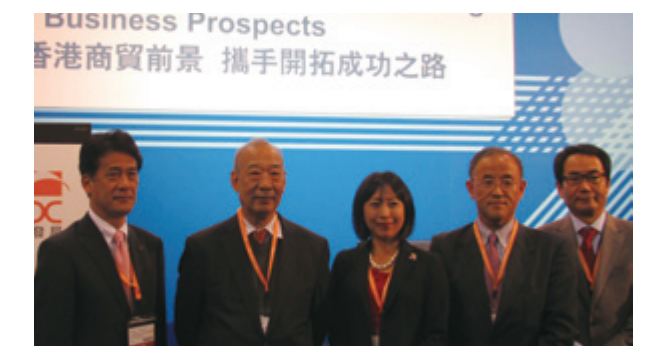
「世界中小企業エキスポ」

12月6日より3日間にわたり、「世界中小企業エキスポ(WSMEE)」が開催されました。WSMEEでは日本から、独立行政法人中小企業基盤整備機構の傘

下で全国の支援企業数社が出展しました。また、2日目のジャパン・セミナーでは、中小機構国際化支援センターの林純也センター長、埼玉ニュービジネス協議会の平沼大二郎会長、重光産業の重光悦枝取締役広報室長、山喜製陶株式会社の河口一代表取締役および味珍味(香港)のフランキー・ウー会長が登壇し、香港をはじめ、中国本土やアジア各国からの中小企業経営者に向け、日本と香港のパートナーシップのメリットについて議論されました。



WSMEE 中小企業基盤整備機構のブース



ジャパン・セミナー(左から:河口氏、ウー氏、重光氏、林氏、平沼氏)

## 香港財界人との交流 Peter Sutchさんのこと

日本香港協会会長 賤前宏

面白い新聞記事がある。一つは1987年のNew York Timesだ。エリートが香港から脱出して行くのに日本人が香港に次々進出とある。当時は日本バッシングが盛んな時ではあったが、皆が香港を諦めて出て行くのに日本企業はアジアの時代とてまず香港に拠点をという時代でもあった。筆者自身も香港は中国となれば物理的にも精神的にも汚くなると内心考えていた。本土人は保全という発想がないので街はたちまち汚くなり、汚職も盛んとなってすべて汚くなると考えていた。一方、日本人商工会議所も預かっていたので表向きは香港の将来に確信を持ちなさいと講演などで力説していた。

もう一つの1996年のSouth China Morning Postの記事は北京の首脳陣と当時の財界を代表していたSwireのPeter Sutchさん、初代行政長官となるC.H. トンさん、JardineのMartin Barrowさん等が香港の将来は肯定的だとしているのに対し、(筆者は香港から北京に転勤し東京に戻っていたので、おそらく出張の折に会議に誘われたのではないかと)余りストレートにも言えないので奥歯にももの挟まったような表現で何の心配もないとは言え切れないと記者に話した覚えがある。率直なところ香港もこれで終わりと思っていた。Peter Sutchさんとは1980年代終わりころ年會で会った。当時は基本法の骨組みもほぼ固まり、97年問題への対処もあり、各国商工会議所、香港財界人との会合が連日のよう

にあった。

香港を代表する英系コングロマリットはJardineとSwireがある。何れも日本の貿易商社より歴史は長く、次々と人材を輩出し新事業を展開してゆく活力は我々も見習うべき点が多い。Swireの社員教育には定評がある。まず、アフリカとか中東で特訓し、将来の幹部候補は極東・香港で仕上げをする。筆者の香港時代には、Gledhillさんが当初活躍していたが、彼が引退した後はPeter Sutchさんが香港代表となり香港のこと、中国のことなどいろいろ教わった。特にSwire代表でなく英国を代表して発言している姿には支店長として感銘を受けた。同社とは船の取引などいろいろあったが、ある日彼の事務所に行くと、キャセイパシフィックが新しい座席を入れ替えることとなり、それをお前の会社に注文したと言われてびっくりした。毎日他の会合に出てじっくり部下の取引を聞いている時間もないだろうとの配慮であったと思う。Swireの人は日本人を妻にしている人が多かった。筆者がすっかり日本女性のどこが良くて結婚するのだろうかと言ったら両手を挙げてそれは絶対禁句だと大笑いになった。

それにしても、1997年直前まで香港財界を代表して円滑な返還のためによく頑張ったと思う。英国に戻り更なる活躍が期待されたが、ガンのため残念ながら2002年亡くなった。

## HOKKAIDO

北海道日本香港協会

### 北海道日本香港協会 会長就任挨拶

北海道日本香港協会会長 横内龍三



横内会長

このたび、前任の吉野会長に代わり北海道日本香港協会の会長に就任いたしました。引き続き、当協会の発展に努めて参りますので、よろしくお願い申し上げます。

北海道日本香港協会は、日本と香港の文化、経済の交流を促進し、北海道と香港の架け橋となるべく、2005年12月に発足いたしました。香港とビジネス上の関係をお持ちの方、香港に駐在経験がある方に限らず、香港に関心をお持ちの方々にご入会いただいております。毎年、さっぽろ雪まつりの初日の夜には「香港のつどい」と題した華やかなパーティーを盛大に開催し、会員、関係者の皆さまと親睦を深めています。

日本を訪れる香港観光客のリピーター率は高く、北海道は人気の観光地として毎年多くの方が来道されています。また、農水産物をはじめ多くの食材が北海道から香港に輸出されています。北海道と香港双方の経済交流、友好親善関係をさらに発展させていくために、当協会の活動を今まで以上に活性化していきたいと考えております。

今後とも、当協会に対しましてより一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

オール北海道の香港への取り組みとして、安心・安全な「食品」と、雄大な北の大地を巡る「観光」をテーマに、香港との交流拡大を図っています。

豊富な食品は、北海道の特色の一つであり、北海道フードコンプレックス国際戦略総合特区を設置するなど官民一体となって道産品の輸出に取り組んでおります。また、札幌や東京で開催されている食品商談会に香港での販路を有する有力な卸小売業者を招聘し、道内企業との商談を行うなど関係の強化を図っています。北海道の安心・安全な「食」を香港でもお召し上がりいただけますよう努力していきたいと考えています。

観光に関しては、既に毎年多くの香港の方々に北海道にお越しいただいております。ラベンダー、大草原、牧場、紅葉、スキー、雪まつりなど北海道の四季折々の魅力に加え、おいしいスイーツやカニ、アワビ、ホタテ、ジャガイモ、メロンなどたくさんご用意しております。さまざまな季節ごとに異なる北海道の美しさを発見してください。

北海道日本香港協会 現役員

役職	氏名	現職
会長	横内 龍三	(株)北洋銀行 取締役会長
副会長	坂本 眞一	社団法人北海道観光振興機構 会長
副会長	安齋 勲	大和交通(株) 取締役副社長
副会長	渡辺 俊隆	全日本空輸(株) 執行役員札幌支店長
副会長	松明 良二	(株)ホクレン通商 代表取締役社長

## KYUSHU

九州日本香港協会

### 香港における展示会の魅力に関するセミナー開催

九州日本香港協会 事務局



セミナー開催状況

九州日本香港協会では9月14日(金)に福岡商工会議所会議室において開かれた、香港貿易発展局主催の「香港における展示会の魅力について」と題したセミナーに後援を行いました。セミナーに先立ち、香港貿易発展局日本首席代表の古田茂美氏、中小企業基盤整備機構九州本部長の河上高廣氏が挨拶されました。講演では、香港貿易発展局副総裁のベンジャミン・チャウ氏が香港との取引の魅力について説明されました。香港は中国における金融・通商・輸送の国際センターとなっており、香港を通すことで中国市場をチャンスに変えることができると紹介されました。出展者およびバイヤーの半数以上が海外から参加するという展示会について、ファッション・エレクトロニクス・家庭用品・

ギフト・ヘルスケア・食品・環境など様々な分野のものが、そこでは良質のバイヤーと関係構築を行うことができます。香港貿易発展局は展示会において高い評価を得ており、香港と日本が緊密な関係を有していることもあり、これらの展示会をビジネスに有効活用することができるお話いただきました。

講演に引き続き、過去に香港で行われた展示会に参加した企業3社によるパネルディスカッションが行われました。モデレーターは香港貿易発展局大阪事務所長の伊東正裕氏が務められ、パネリストとして、ティーフェアに出展された福岡商工会議所専務理事の中村仁彦氏、フード・エキスポに出展されたにしだ果樹園旬工房「果樂」代表の西田淳一氏、イノ・デザイン・テックエキスポに出展された日本デザイン振興会事業部部長の矢島進二氏をお招きしました。それぞれの展示会での事例として、まず中村氏は日本語、英語、北京語、広東語の4つの言語を話せる学生通訳を探すのにJETRO福岡を活用した事例を披露されました。西田氏は展示会後に大手百貨店との商談に進展した事例を紹介されました。矢島氏は昨年東北の復興支援にスポットを当てたブースの出展を行ったところ、1万6千人もの方が来場された事例を紹介されました。

九州日本香港協会では今後もこのようなセミナーの後援や交流会の開催等を通じて、会員間の交流を図っていく所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

## YAMAGATA

山形日本香港協会

### 香港の思い出の味

山形日本香港協会副会長兼事務局長 大山康吉



ワンタン麺

香港に来る機会があると必ず立ち寄る店があります。香港島威靈頓街にある「沾仔記」という小さな粥麵店の雲吞麵を食べることから香港モードに切り替わるのです。というのは、30年も前ですが香港に駐在していた20代の頃、セントラルの事務所からここの店が近く、毎日のように昼はここで代理店の女性ボスの李社長に連れてこられて、庶民の味をご馳走してもらったことを思い出させてくれるからです。特に小生は、雲吞麵が好きで油菜のサイドメニューと一緒に食べておりました。他に撈麵や炸醬麵も人気メニューでこちらもよく食べた記憶があります。確かに香港は食天国で、豪華版のメニューや珍しい料理に出会うことができましたが、自分には油の多い料理はどれも合わなかったように感じます。その点では、ちぎれたゴムのようなかん水を使った

独特のコシのある麵はなかなか日本では見かけないので、アヒルの卵を使い、当時は、竹竿を足で漕いで打っておりました。しかも、スープは海鮮系の干しエビ、貝柱、大地魚と鶏ガラのコンビネーションが実に麵とよくマッチして、いつ食べても美味しいのです。

最大の謎は、雲吞ひとつひとつの大きさとその内容とボリュームです。日本で味わったことのない大型シューマイともいえるべき立派なものであります。新鮮なエビのすり身や剥きエビが1個に対して5~6個使われており、しかも、価格はメニューの中で最もリーズナブルであることに感激してしまいます。そんな理由で、今でも香港の一番の味となっている訳です。他にも、九龍佐敦のフラットから近くにあった「麥文記麵家」という老舗があり、夜中の締めラーメンとしてよく行った粥麵店も香港庶民の店という雰囲気がとても情緒的で好きでした。毎週日曜日にソフトボールチームで試合や練習した後も、天光道壘球場近くの潮州式麵の店「黄明記」の墨魚丸麵も楽しみにしていた麵のひとつで、思い出しては食べたくなります。

国内ではラーメン王国と言われている山形ですが、本場の雲吞麵には敵わないものと誇めながら米沢ラーメンをすすっている今日この頃です。

## TOKYO

NPO法人日本香港協会

### アジアユースオーケストラ(AYO)日本公演2012を終えて

日本香港協会理事(アジアユースオーケストラ日本代表) 佐藤 功



アジア・ユース・オーケストラ(仙台公演)

今年もAYOは、日本で4公演(8月24日前橋、26日仙台、28、29日東京)をつつがなく終演することが出来ました。これもひとえに会員各位のご支援、ご協力の賜

物と厚く御礼申し上げます。

前橋(8月24日)でのコンサートに先駆け、群馬県知事主導にて、また地元の皆様方のご協力により実施されたご当地での心温まるホームステイのおもてなしは、アジア各地からやって来た若き団員たちに大きな感動をもたらしました。その感動は、前橋での首席指揮者ジェームズ・ジャッド指揮によるマーラー交響曲第9番の演奏にも反映していたと思います。

翌々日(8月26日)の仙台でのコンサートでは、芸術監督、指揮者リチャード・パンチャス指揮によるベルリオーズ

幻想交響曲を通して、皆様と東北大震災後の力強い復興と協働への不屈の精神を共有できたものと確信致しております。特に、津波による大被害を受けた荒浜での被災者の方たちへの追悼演奏は、団員をはじめ、現場で活躍されているボランティアの皆様、復興への希求とグローバルな一体感を醸成していくことと思います。それは私にとっても未永く心に残る光景でした。

東京オペラシティコンサートホールでの2日間(8月28、29日)にわたるファイナル・コンサート終演後のフェアウエル・パーティでは、毎年メンバーが替わっても、その光景は例年と全く同じでした。一体感あふれるアジアの絆として、次代を担う足音が身近に感じられました。

翌朝8月30日、団員一同は約2か月間に及ぶ共同生活の思い出と共に、成田よりそれぞれ帰国の途に着きました。来る2013年も、団員は替わっても同様の光景が繰り返されて行く事を、またアジアの若き音楽家の絆の輪が、AYOを通じてますます広がっていくことを祈念致します。

### 第29回香港ビジネス懇話会



講演中の手島茂樹氏

9月11日、二松学舎大学国際政治学部・大学院教授で当協会理事でもある手島茂樹氏に、「変換期に於ける協調と競争:イノベーションに見る日本

の競争力」と題して講演をお願いしました。

先進国と発展途上国での所得格差が縮小して、これまでの南北問題の時代から大きな変換期を迎えている。先進国では成長が鈍化し価格より品質志向の先進国型市場が低迷する一方で、品質より価格志向の発展途上国・新興国型市場が拡大して現在の成長市場となっている。特殊性が高く高品質な商品を閉鎖的な関連企業間のネットワークの中で扱うことの多い日本企業の特徴が、「標準化」汎

用品化」が進むアジア等の新興国企業に今後太刀打ちできるのかをさまざまな角度から分析・解説され、日本企業の課題が豊富なデータに基づき浮き彫りにされました。

香港ビジネス懇話会は間もなく30回目を迎え当協会の主要活動の一つとなっています。この一年間でも「人民元の国際化の進展と今後の中国金融取引の動向」「香港の役割・機能の変化と日本企業の香港活用方法」「中小企業の中国進出、香港からの視点」などのアップデートなテーマを取り上げて講演を行ってきたほか、広島のお好み焼きソース会社や熊本ラーメンチェーン会社のように個性的な商品を武器に香港・中国に進出している会社の皆さんにも現地経営の要点やパートナーとの協調のコツなどを具体的な事例をもとに話していただきました。講演後の質疑応答は熱心な質問が飛び交って大いに盛り上がり、毎回好評をいただいております。

### 日本シンガポール協会との役員懇親会を開催

9月28日(金)夕刻、銀座にあるシンガポール・シーフード・リパブリックにて恒例の日本シンガポール協会との役員懇親会が開催されました。出席者は総勢23名。

開会に先立ち日本香港協会前会長より香港とシンガポールの現況が紹介され、特に「香港の港湾コンテナ取扱量は減少幅が拡大。深圳にも追い上げられ世界10大コンテナ港の単月統計では、4位に転落した。それに比べてシンガポールは、上海を抑えて1位の勢いである」との話があり、シンガポールの物流活況模様が印象に残りました。

日本シンガポール協会からは、鈴木会長はじめ理事、監

事、参与、事務局長総勢11名が参加され、眼下に銀座の街並みが見える部屋にて円形テーブルを囲み、美味しいシンガポール料理とワインに舌鼓を打ちながら、香港とシンガポールの話に華が咲き、和やかな懇親会となりました。

今後も両協会が連携をとって広く情報交換をしていくことを確認致しました。



日本香港協会・日本シンガポール協会役員の面々

## KANSAI

関西日本香港協会

関西日本香港協会事務局

### 香港ビジネスセミナー開催



144名の参加者が集まった「香港ビジネスセミナー」

関西日本香港協会では去る7月13日に人民元の国際化と香港税制をテーマにしたセミナーを香港貿易発展局との共同主催で開催し144名が参加しました。人民元の問題に関しては、その分析力に高い定評のある気鋭のエコノミスト、HSBC投信株式会社の代表取締役社長松田宇充氏に「人民元国際化の将来」と題した講演をお願いしました。また香港の税制に関しては、2012年1月に発効し未だあまり知られていない日港租税協定を中心テーマに「日港租税協定と香港税制のポイント」と題した講演を、グラントソントン太陽ASG税理士法人の中国デスクパートナー下岡郁氏にお願いしました。

松田講師は最初に、香港上海銀行は1866年に横浜に支店を出した日本で最も古い銀行であり、HSBCグループで

はムーディーズやS&Pの信用格付で世界の銀行の中でトップの評価を得ていると紹介されました。講演の最後にHSBCが今年に入って日本から撤退し経営資源を新興国に投入する方針が決まったと話されたのは大変ショッキングなニュースでした。中国経済、為替レートの推移、人民貿易決済センターと香港の役割、人民元取引の実態などについて詳細なデータに基づいて解説されました。アジアで貿易の人民元決済が増えている中で日本は出遅れていること、海外での人民元貿易決済が急増している中で香港が90%のシェアを占めており香港の重要性が増していること、中国経済の安定成長と金融市場の整備が進めば2020年をターゲットにしている人民元の国際化が進む可能性が高いと説明されました。

下岡講師は、中国吉林省のご出身で1993年に中国の司法試験に合格され、1994年来日以来、日本企業の中国進出、中国企業の日本進出に係る会計税務コンサルタント業務で活躍しておられます。講演の中で香港の税制と日港租税協定の内容を資料に基づき詳しく解説され、日港租税協定の発効により二重課税の防止と源泉税が軽減されることにより、香港から日本への投資拡大と日本企業が香港を事業統括センターにする動きが加速する可能性が大きいと話されました。

### 法人会員交流会

当協会では、法人会員同士の懇親と最新の香港事情を学ぶ目的で年に1~2回法人会員交流会を開催しております。今回は、6月20日に大阪キャッスルホテル内の中華料理「錦城閣」に於いて16名参加の夕食会を開催。食事に先立って香港貿易発展局大阪事務所長の伊東正裕氏に「最新の香港事情」についてのスピーチをお願いしました。「一体化が進む珠江デルタ経済圏と香港の未来」と題した豊富な資料に基づきダイナミックに発展・変貌する香港を中心とした経済圏の発展状況を詳しく解説していただきました。

伊東氏は最初に、香港の歴史と先ず基本情報[一国二制度、経済貿易緊密化協定(CEPA)の優遇措置による対中取引、人口707万人(うち外国人53万人)、海外からの渡航者4100万人(うち中国本土から2810万人)、一人当たりGDP:34,335米ドル(2011)、GDP成長率:+7.0%(2011)、個人消費成長率:+6.2%、物価上昇率:+2.4%、失業率:3.4%]を説明されました。続いて貿易概況[2011年貿易総額:9105億米ドル(対前年比+11.0%)うち対中国/4416億米ドル(前年対比+10.1%)、対米国/695億米ドル(前年対比+6.0%)、対日本/581億米ドル(前年対比+4.1%)、2011年度の輸出ランキングでは日本は米国に次ぐ3位、輸入ランキングでは日本は中国について2位]を説明され、香港が日本にとって重要な貿易相手国であることを再認識させられ

ました。次に、香港が中国のゲートウェイ&アジアのセンターであり香港の競争力の源泉が世界貿易の発信基地・ビジネスしやすい環境、世界有数のビジネス基盤、ヒト・モノ・カネ・情報の自由な流通等にあると説明されました。それは、香港の競争優位である経済自由度世界第1位、世界競争力・潜在競争力世界第1位、世界グローバル化指数第1位、IPO調達額第1位(580億米ドル)、資産運用センター第2位(アジア太平洋地域)、GDPの第3次産業構成比世界第1位です。その他、香港政府の成長戦略や珠江デルタ経済圏の発展、開通間近の港珠澳大橋や香港-広州高速鉄道などに関する情報を提供していただきました。美味しい中華料理をいただきながら、有意義で楽しい交流会でした。



伊東正裕氏(香港貿易発展局大阪事務所長)によるスピーチ

# CHUKYO

中京日本香港協会

## 会員親睦会および秋期セミナー、異業種文化交流報告

中京日本香港協会事務局 佐藤亮一



ワールドコラボフェスタの会場風景

中京日本香港協会は、正会員及び法人会員へのサービスの一環として夏期は海、秋期は山と親睦会の輪を広げるべく定着行事にして4年目を迎えることとなった。今年は、夏期クルージングと称し名港海運(白鷗会)様の協力の下、伊勢湾クルーズを実施。「いしかり(名古屋~仙台~苫小牧)乗員780名、全長200メートルの大型フェリーを今回貸し切り、協会会員38名含め300名とゆったりとした回遊を楽しむことが出来た。特に、子供たちには、間近に「中部国際空港」セントレアの普段観られない飛行機の離発着を身近に体験でき大変喜ばれた。今後個人会員の増強を目指し口コミで協会の賛同者が増えることを期待したい。10月6日好天も味方した。

一方、ビジネス、法人対象には、秋期セミナーを実施した。香港、中国への中小企業の進出の支援として、タイムリーな話題提供を目指した。今回は11月14日IBSCホールにて1部香港を通じ世界へ~香港貿易発展局伊東大阪事務所長、2部香港、大中華圏市場へのゲートウェイ~大昌貿易行顧問アレックス・チュウ氏、3部香港への事業展開について~伊藤忠商事桑山理事等々、年末を飾るにふさわしいテーマを各講師に依頼、各々快諾を戴いたことに感謝したい。

最後に、秋期の名古屋イベントとして県国際交流協会、名古屋国際センター主催に加え、多企業の協賛を得た第6回ワールドコラボフェスタが、栄地区(テレビ塔下会場)にて10月27日、28日の2日間に亘り開催、当中京日本香港協会も初回開催時より参加。このフェスタは異業種間の国際交流の場となって恒例化しつつある。入会希望案内、香港への旅行案内など貿易発展局の協力(ジャッキー・チェンの看板、香港パンフレットなど)を得て実施。昨年の大雨に比し、今年は好天に恵まれ、



ワールドコラボフェスタの会場風景

7万人強の集客が出来たと国際センターからの発表があった。

中京日本香港協会としても、地道ながらも親睦会を中心に中京地区から香港へのPRを行い、香港からの留学生が中部地区には少ないものの各催事に参加してもらうべく主要4大学に働きかけている。

飛龍 No.72 2012年12月 発行 (禁断転載)

### 日本香港協会 全国連合会

〒102-0083 東京都千代田区麹町3-4 トラスティ麹町ビル6階  
香港貿易発展局 東京事務所内  
電話(03)5210-5901 FAX(03)5210-5860

NPO法人日本香港協会(東京)  
〒102-0083 千代田区麹町3-4 トラスティ麹町ビル6階  
香港貿易発展局内 電話(03)5210-5870

関西日本香港協会  
〒541-0052 大阪市中央区安土町2-3-13 大阪国際ビルディング10階  
香港貿易発展局内 電話(06)4705-7030

中京日本香港協会  
〒460-0003 名古屋市中区錦2-11-27 T H 錦ビル8階  
株式会社喜齋内 電話(050)8620-2517

九州日本香港協会  
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2丁目9-28 会議所ビル  
(社)福岡県中小企業経営者協会内 電話(092)451-8593

山形日本香港協会  
〒990-2432 山形市荒橋町1-14-21  
(株)日本不動産コンサルティング内 電話(023)633-2110

北海道日本香港協会  
〒060-8661 札幌市中央区大通西3-11  
北洋銀行国際部内 電話(011)261-4288

宮城日本香港協会  
〒980-0811 仙台市青葉区一番町3-7-23 明治安田生命仙台一番町ビル3階  
(株)JTB東北 交流文化事業部内 電話(022)212-5552

沖縄日本香港協会  
〒900-0033 那覇市久米2-2-10  
那覇商工会議所内 電話(098)868-3758

広島日本香港協会  
〒730-0052 広島市中区千田町3-7-47 広島県情報プラザ3階  
(公財)ひろしま産業振興機構 国際ビジネス支援センター内  
電話(082)248-1400

URL <http://www.jhks.gr.jp>

# MIYAGI

宮城日本香港協会

宮城日本香港協会事務局 武田功

## 東日本大震災チャリティ 「ひびきあう心コンサートPART2」を開催



出演者みんなで

7月21日(土)13:00そして16:00からと2回にわたり、せんだいメディアテーク・オープンスクエアに於いて、NPO法人「美・JAPON」との共催で、昨年に引き続き、東日本大震災チャリティイベント「ひびきあう心コンサートPART2」(ファッションショー&コンサート)を開催しました。日本の美「きもの」を洋服によみがえらせたファッションショー、NHK大河ドラマ「篤姫」や「江~姫たちの戦国~」のテーマソング作曲家・吉股良氏、ヴァイオリニスト向島ゆり子氏と奄美島唄の唄者・朝崎郁恵さんによる演奏や唄、そして資生堂ビューティディレクターの上田美江子さんによる親子三代メイク&ヘアショーなど、暑いなか、約400名の人たちに参加いただき、盛大に開催することができました。きれいな着物を洋服にあつらえた姿は、まさに絵巻物を見ているようで、観客もみんな唖然として見とれておりました。参加者から寄せていただいた見舞金は翌22日被災地である亘理町公民館で開催されたコンサートの冒頭、齋藤町長様に渡すことができました。一日も早い復興を願っております。

## 女性部会による第2回香港文化教室、 YOUYOUクラブによる芋煮会を開催



第2回文化教室で挨拶する菊地副代表理事

9月12日(水)仙台国際ホテル5階「翠林(すいりん)」にて第二回目の香港文化教室を開催、総勢17名の参加でした。冒頭、菊地副代表理事からご挨拶をいた

だき、講師には仙台国際ホテル羽田中国料理長にお願いし、今回は宮城野ポークを選択、圧力釜で煮た角煮風のポークを黒酢で包む、宮城野ポーク黒酢豚の作り方を勉強しました。会食のメニューは、「芝海老の杏酒炒め」、「フカヒレと野菜の柔らか煮」、「宮城野ポークの黒酢豚」など八種類、参加者も口々に「おいしいね」と言いながら、満足そうに食べていました。

また、10月21日(日)には恒例の芋煮会を茂庭荘で開催、風が幾分強く、時々ふく突風に皿やコップを抑えながら芋煮会を開催しました。秋晴れの、ちょっと暑いぐらいのぽかぽか陽気の中、小野寺代表理事の挨拶、三橋監事の乾杯で始まり、老若男女総勢44名の参加者を得ました。照り返す太陽の下で気持ちよくビールや日本酒を嗜み、車で来た人はノンアルコールビールで我慢する人もおりましたが、飲物は用意した分で足りなくなるのではと心配になるほど。話に夢中になって食べるのを忘れる人もいるほどの盛況ぶりでした。



今日は天気もいいし最高だよ

## 英会話教室の開講

7月3日から英会話教室を開講、毎週火曜日、5名の参加ではありますが、会話中心の独特な教え方に、受講生も「うん、これならやれる。3か月後、5か月後が楽しみだ」と、楽しい鎌田先生のお蔭で、充実した内容に、やる気満々の教室となっております。



英会話教室が始まりました

# OKINAWA

沖縄日本香港協会

沖縄日本香港協会 事務局

## 沖縄日本香港協会 平成24年度 通常総会 開催

沖縄日本香港協会平成24年度通常総会が8月29日(水)午後5時より「かりゆしアーバンリゾートナハ」にて開催されました。沖縄日本香港協会の國場幸一会長は懇親会の冒頭で、「今年沖縄県は本土復帰40周年を迎え、香港は返還して15年が経過しましたが、その発展のスピードには大きな差があります。このような香港の現在の発展を支えてきた大きな要因として一国二制度があると考えています。新たな沖縄振興計画が始まりますが、香港に学ぶことは多いと考えます。沖縄日本香港協会の活動を通じてアジアにおける沖縄の将来を考えていきたい」と挨拶しました。下記の通り平成23年度事業報告・平成24年度の事業計画が、全会一致で承認されました。

平成25年度に、アジア地域の香港協会が会する「アジア・フォーラム」の開催が沖縄で予定していることが報告され、平成24年度事業計画でも開催準備を進めることが承認されました。「アジア・フォーラム」の開催は、日本での開催は初めてであり、全国連合会を始め、各地の香港協会の御協力を頂きながら成功に向けて準備を進めて参ります。沖縄日本香港協会では、今まで以上に幅広く多くの団体・関係者と連携を深めながらより良い事業を展開していきます。

### 平成23年度 事業報告

#### 通常総会

日時:平成23年9月29日(木)午後5時~5時30分  
場所:かりゆしアーバンリゾートナハ 6階 カナイの間  
議案:第1号議案 平成22年度事業報告並びに収支決算  
第2号議案 役員の変更  
第3号議案 平成23年度事業計画並びに収支予算

#### 懇親会

日時:平成23年9月29日(木)午後5時30分~  
場所:かりゆしアーバンリゾートナハ 7階 シェルホール  
アジア リーガルインベストメント&トレーディングシンポジウム 沖縄2011 中国・香港・台湾・沖縄  
「アジアのビジネス展開に必要な法制度の相互理解」  
日時:平成23年11月11日(金)午後1時~午後5時30分  
場所:ザ・ナハテラス 3階 アダンの間  
共催:沖縄日本香港協会 那覇商工会議所  
沖縄国際架け橋弁護士グループ 中琉協会  
講師:フレッド・カン氏(香港弁護士会理事 弁護士)  
ジェイソン・ツァン氏(中国法律事務所 弁護士)  
劉志鵬氏(フォルモサ・ブラザーズ事務所 弁護士)  
藤田 雄士氏(ふじ法律事務所 弁護士)

参加者:80名

日本香港協会 全国交流会への参加

日時:平成23年11月28日(月)午後6時30分~  
場所:六國ホテル(香港)  
沖縄日本香港協会参加者 6名  
香港フォーラムへの参加  
日時:平成23年11月29日(火)~11月30日(水)  
場所:香港コンベンション&エキシビジョンセンター  
主催:香港貿易発展局  
沖縄日本香港協会参加者 6名  
九州経済連合会・香港中華商会 MOU調印式  
日時:平成23年11月30日(水)午前8時~  
場所:香港ルネッサンス・ハーバービューホテル(香港)  
参加者:九州経済連合会 松尾新吾氏  
九州日本香港協会 石原 進氏  
沖縄日本香港協会 國場幸一氏 他

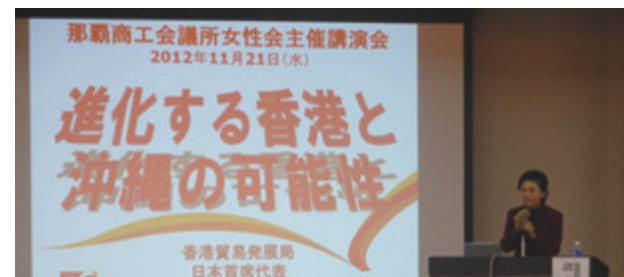
香港貿易発展局フレッド・ラム総裁と日本香港協会役員との意見交換会  
日時:平成23年11月30日(水)午後4時~5時  
場所:香港貿易発展局 会議室(香港コンベンションセンター内)  
参加者:沖縄日本香港協会 國場幸一氏  
沖縄日本香港協会 役員意見交換会  
日時:平成24年1月19日(木)午後6時~7時30分  
場所:沖縄ハーバービューホテル クラウンプラザ 桃翠  
来賓:香港貿易発展局 日本首席代表 古田茂美氏  
参加者:12名

### 平成24年度 事業計画

沖縄日本香港協会 平成24年度 通常総会・懇親会の開催  
日時:平成24年8月29日(水)17:00~  
場所:かりゆしアーバンリゾートナハ  
日本香港協会 全国交流会への参加  
日時:平成24年12月3日(月)18:30~  
場所:The Grand Hall(香港)  
香港フォーラムへの参加  
日時:平成24年12月4日(火)~12月5日(水)  
場所:香港コンベンション&エキシビジョンセンター  
主催:香港貿易発展局  
2013 アジア・フォーラムの開催準備への協力  
春節 香港ビジネスセミナー&懇親会の開催(2013年2月上旬予定)  
沖縄県物産公社・沖縄県振興公社・JETRO沖縄事務所との連携  
日本香港協会会報「飛龍」への寄稿及び会員への配布  
会員親睦行事の開催ならびに他経済団体への協力  
沖縄日本香港協会の会員拡大

### 進化する香港と沖縄の可能性 日本首席代表 古田茂美氏 講演開催

平成24年11月21日(水)午後7時より、沖縄産業支援センターにおいて、那覇商工会議所女性会(鈴木啓子会長)主催の講演会が開催され、70名が参加しました。講師には、香港貿易発展局日本首席代表の古田茂美氏が迎えられ、「進化する香港と沖縄の可能性」と題して講演されました。古田代表は、「冊封制度に見られるように、沖縄と中国は歴史的な繋がりが長く、日本と香港の地理的な戦略的ロケーションと共に、優位性がある」とし、香港台湾福建経済圏の連携を提案され、香港の農水産物加工食品・不動産・観光IT・流通産業の展示会への積極的な参加、中華圏の高齢社会に対するサービスの提供・輸出、中華人が来県し易く、投資し易く、話しやすい特徴をとらえた沖縄グローバルイズムの可能性を上げられました。参加した多くの女性経営者の多くは、普段触れる機会が少ない香港から見た沖縄の可能性を学ぶ絶好の機会となり、有意義な講演会となりました。



香港貿易発展局古田茂美氏

# HIROSHIMA

広島日本香港協会

## 香港関連事業の実施状況

広島日本香港協会事務局長 川北正明

### 香港観光インバウンドセミナー



エネルギーに講演される「袁さん」

香港の出境率(人口に対する海外渡航者数の割合)は89.5%と非常に高く(日本は12.3%)、香港人は旅行好きな人々として知られています。また、1人当たりGDPも3万4千米ドルを超えていることから、旅行先での消費を含め、被訪問国としては大変ありがたいお客様と言えます。訪日観光客数を国・地域別に見ると、2010年には香港から473,031人が訪日しており、これは韓国、台湾、中国に次ぐ上位4番目の数字です(資料出所:日本政府観光局「国・地域別訪日外客数」)。広島においても、広島~香港間に航空定期便の就航していた2008年には香港から5,873人の観光客が訪れていましたが、定期便が運休となり、2011年の香港から広島への観光客数は3,042人と低迷しています(資料出所:広島県商工労働局観光課「広島県観光客数の推移」)。

そこで、潜在力を有する香港からの観光客をいかに増やしていくにつれ、実績のある実務家に語って頂くため、観光インバウンドセミナーを8月23日に広島市内で開催しました。講師は日本向け送客数で香港業界首位を誇るEGLツアーズの袁文英董事總經理を香港から招聘しました。非常に謙虚な方で、ご本人たってのご希望で、広島ご滞在中は「袁さん」と呼びしていました。その「袁さん」に講演をお願いしたのは、1986年にたった4人でスタートした会社を、現在は社員660人の旅行会社に育て上げられた成功談を伺いたいというだけでなく、いかに厳しい状況下でも社員を大事にされ、危機をチャンスと捉えて行動されるその経営哲学に興味を持ったためです。

ご講演では、全ての基礎は「おもてなしの心」にあると強調され、EGLツアーズの電話対応マニュアルを例に語って頂きました。香港特有の旅行傾向としては、個人化、小集団化が進み、レンタカーをよく利用、食事にはお金を惜しまない、数字の縁起を担ぐ、フォト・ウェディングという旅行分野がある等、実務家ならではの

情報を惜しげもなくエネルギーにご披露頂きました。また、袁さんは、「花文字(文字を花のように飾ったもの)を内密に用意し、セミナー参加者全員にサプライズとして配られるなど、まさに「おもてなしの心」を実際に示されました。広島ご滞在中は、少しでも時間があればホテル視察をされるなど、そのご努力は頭の下がる思いでした。

### 香港向け食品セミナー・相談会

日本の農林水産物・食品の最大の輸出先(シェア25%)である香港に対し、「広島の食材をどう売り込んでいくか」をテーマに、香港向け食品セミナーと個別企業相談会を10月4日に広島市内で開催しました。講師は、香港貿易発展局大阪事務所の伊東正裕所長、香港の総合商社である大昌行集団の日本法人大昌貿易の雷彩霞次長、日本酒の香港・中国市場への輸出業務を行うジャパン・インターナショナル・トレーディングの奥島正社長のお三方にお願いしました。まず伊東所長からは、香港の消費者の特徴、外食市場が優勢なため業務用市場の開拓が必要なこと、「南進北上」という香港で基盤を作り中国大陸市場を攻める方式の優位性等につき語っていただきました。続いて、日本の生鮮食品を数多く香港市場に導入し香港における日本食ブームの火付け役として知られる雷次長からは、香港人の食品に対する具体的傾向、消費者嗜好を知るために定期的なプロモーションが必要なこと、日本食材でも日本料理に限定せず、中華料理での使い方を提案すべきこと等を説明頂きました。最後に、奥島社長からは、香港の日本酒マーケット事情、香港進出に備えた日本酒銘柄の商標登録の必要性等につき具体的なアドバイスを頂きました。セミナー終了後には、当協会会員を対象に個別相談会を実施し、5社1団体からの相談に対し、各講師からこれまでの経験を生かした具体的助言がなされました。このような各種事業を通じ、参加者の香港・中国でのビジネスが拡大していくことを念願しております。



香港向け食品セミナーの開催状況